

普及活動情勢報告

情勢報告（平成28年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

露地野菜の産地化に向けて

～秋冬野菜現地検討会の開催～



ニンジン
の生育状況を
参加者で検討

10月21日、四万十町窪川地域において露地野菜の産地化に取り組んでいる四万十町畑作振興プロジェクトの秋冬野菜の現地検討会が開催され、7名の生産者が参加しました。

今秋は、ジャガイモ・ハクサイ・ニンジン・タマネギの4品目を作付けしています。普及所からは、ジャガイモに発生している軟腐病の防除指導や今後の栽培管理について品目ごとに説明し、生産者と課題を話し合いました。生産者からは出荷に関する話し合いを持ちたいとの意見があり、プロジェクトの世話役と日程調整を行うこととしました。

今後も、毎月行っているプロジェクト定例会で課題を共有しながら露地野菜の産地化を支援します。

ニラの品質向上に向けて

～目慣らし会及び現地検討会の開催～



目慣らし会
での品質確認
の様子

11月9日と16日に、両日で34名の農家が参加してJ A四万十ニラ部会が目慣らし会及び現地検討会を開催しました。

目慣らし会では、規格や品質についての説明、出荷ニラの品質確認が行われました。現地検討会では、被覆資材の洗浄方法についての説明の後、生育状況を確認しました。

普及所からは、ほ場で発生している褐色葉枯病防除、これから発生が多くなる白斑葉枯病防除について情報提供しました。

今後もJ A四万十と連携し、農家の経営安定及び栽培技術向上に向けて支援を行っていきます。

キュウリの収量・品質向上 ～目慣らし会及び環境制御研修会の開催～



目慣らし会
の様子



ハウス
での研修

11月17日、J A四万十キュウリ部会が目慣らし会と環境制御技術についての研修会を開催し、9名の農家が参加しました。

目慣らし会では、規格の確認や箱詰め作業の効率化に向けたキュウリの並べ方、出荷場への音声案内機能付き計量器の導入についての協議が行われました。

その後、農業担い手育成センターのキュウリのハウスに移動し、環境制御下での施肥や灌水管理、温度管理、病虫害防除について研修を行いました。同部会は27園芸年度から環境制御機器の導入が始まり29園芸年度には部会員11戸中7戸で炭酸ガス発生装置が導入されています。

今後も、導入された機器が効率よく活用され、キュウリの収量、品質が向上するよう、J A四万十と連携して支援していきます。

J A 四万十女性部手づくりキッチンへの支援

～高知県立大学との連携によるアンケート調査の実施～



打合せ会の様子



学生によるアンケート調査

J A 四万十女性部手づくりキッチンでは、今年度、高知県立大学健康栄養学部健康栄養学科の学生さんたちの協力を得ながら、運営上の課題の改善に向けた取り組みを行っています。

10月25日の打合せ会では、顧客満足度の知するためのアンケート調査実施方法をキッチンスタッフと県立大生らで検討しました。アンケート調査は、11月18日～21日の4日間、学生による聞き取りで実施し、多くの利用客の声を聞き取ることができました。

今後は、調査結果をもとに販売する弁当、惣菜の充実に向けての検討を行い、県立大との連携した取り組みへの支援を行っていきます。

四万十の栗の生産拡大支援 ～四万十の栗クラスター化計画策定協議会の開催～



クラスターについて協議

11月8日、四万十の栗クラスター化計画の策定に向けて、町役場がJ Aや栗に関係する民間企業等を集めて協議会を開催しました。

大正、十和地域では、平成22年度から四万十の栗の再生プロジェクトにより、栗の生産拡大などに取組んでいます。その担い手となる農業法人が来年度に栗のペースト加工に取組む計画を進めていることから、関連業種が連携して地域に新たな付加価値や雇用を生み出す取組とならないか検討しました。

普及所は、農業分野における県の支援策や農業クラスター化の考え方などを説明しました。農業法人からは、生産に加工部門が加わることや、次世代施設園芸団地の残さを堆肥に活用する取組などが関連業種にあたらないかなどの意見が出ました。

今後も、J Aなどの関係機関と連携して四万十の栗の再生に向け、栗の生産拡大を支援していきます。

経営改善計画の見直しを支援 ～認定農業者のフォローアップを実施～



認定農業者に現状や今後の計画をヒアリング

認定農業者のうち本年度に認定後3年目と5年目となる93名の方を対象に、町役場、J A及び普及所が連携して、フォローアップを行っています。

普及所は、面談による経営状況の確認や経営管理への助言、農業経営改善計画の見直しを支援しており、5月上旬から11月中旬までに8割を超える75名の方のフォローアップを行いました。

認定農業者からは「今後は、両親が高齢になるので作業の効率化に向けて、省力化機械を導入したい。」「作業の受託面積が増える見込み。」「環境制御技術を導入して、冬期の収量アップをめざしたい。」等の声が聞かれました。

今後も、認定農業者の経営改善計画の達成に向けて、関係機関と共に支援していきます。